

第2次茅野市地域創生総合戦略の改訂事項について

第2次茅野市地域創生総合戦略の計画期間は令和6年度末までとなっておりますが、現行の総合戦略における全体の数値目標である「生産年齢人口比率」の推移を見ても、目標水準を上回っており、直近の茅野市全体の人口推移の状況についても併せて踏まえる中で、一定の取組成果が表れています。また、現行の総合戦略のテーマである「若者に選ばれるまち」の実現については、第6次茅野市総合計画における交流の考え方の一つに位置付けられていることから、現行の総合戦略について下記のとおり、内容の一部改訂を行った上で、計画期間を延長します。

記

1 計画期間の延長について

第6次茅野市総合計画の計画期間に合わせて、現行の総合戦略における計画期間を4年間延長し、令和10年度末までとします。

2 テーマに関する表記の見直しについて（別紙1参照）

【若者に「選ばれるまち」の実現】から【「若者に選ばれるまち」の実現】に表記を修正します。

3 「若者に選ばれるまち」のイメージについて（別紙1参照）

【若者に選ばれるまち構想】から【「若者に選ばれるまち」のイメージ】に表記の修正を行い、第6次茅野市総合計画と第2次茅野市地域創生総合戦略の関係性を明らかにした上で、第6次茅野市総合計画において示しているまちづくりのイメージ図を掲載します。

4 数値目標・KPIの見直しについて（別紙1参照）

現行の総合戦略における計画期間を令和10年度末まで延長することに伴い、数値目標とKPIについて、令和10年度目標値への更新を行います。

なお、見直しを行い、変更した上で令和10年度目標値の設定を行った、数値目標とKPIは次のとおりです。

(1) 基本目標2 通いたい、帰りたいまちをつくる

KPI 【公立諏訪東京理科大学卒業生の諏訪地域内創業・就業者数】

（【公立諏訪東京理科大学卒業生の市内創業・就業者数】から変更）

基本目標4 安心して出産・子育てができるまちをつくる

- ・ 数値目標 【出生数】
（【合計特殊出生率】から変更）
- ・ KPI 【産後ケア事業の利用率】
（【不妊・不育症治療助成件数】から変更）
- ・ KPI 【茅野市は子育て支援・補助が手厚いと感じている市民の割合】
（【子どもと家庭の支援、応援の充実の満足度】から変更）

(2) 基本目標5 安心・安全、快適なまちをつくる

- 数値目標 【茅野市の行政サービス全般について満足している市民の割合】
（【茅野市の行政サービス全般に対し不満を感じている人の割合】から変更）

5 基本目標・横断的施策に関する表記の見直しについて（別紙1参照）

基本目標や横断的施策における基本的な方向や具体的な取組内容の説明について、現状に沿う形に表記を一部修正します。

6 掲載事業に関する変更等について（別紙1参照）

事業の新規掲載や名称の変更、事業終了に伴う掲載終了などを行います。

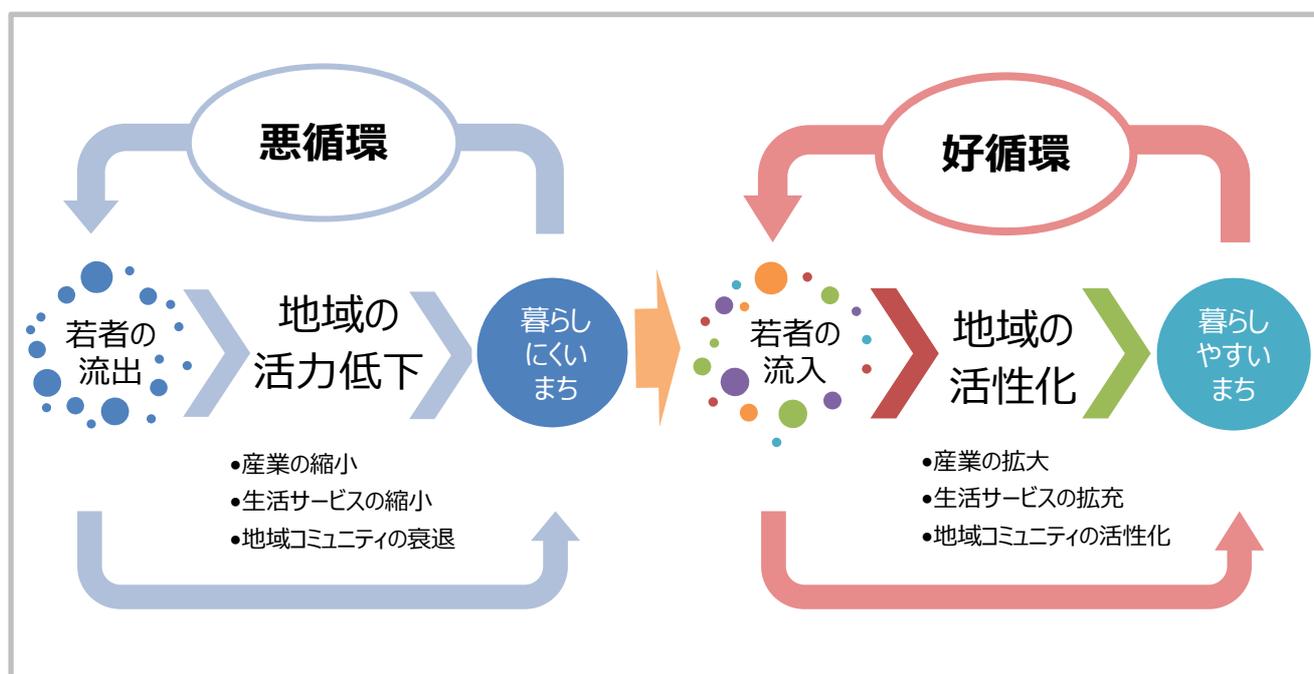
第 2 次茅野市総合戦略

1 基本的な考え方

第2次茅野市総合戦略が目指すまちの姿

- 若者がいなくなると、企業の人手不足や、スーパーやコンビニエンスストア、チェーン店が撤退するほか、バスや鉄道、タクシー等の公共交通を始めとする生活サービスが縮小し、**生活が不便になります。**
- 一方、地域のコミュニティでは、消防団員や公民館役員、保健指導員のなり手が不足し、**住民の負担も増えていくこと**になります。
- 生活が不便で、住民の負担も多い、**暮らしにくいまち**になると、より暮らしやすいまちを求めて、**若者はますます都市部等へ流出してしまいます。**
- **「若者に選ばれるまち」**には、**若者が流入し、経済が活性化し、生活サービスが充実し、住民の負担も減ること**で、結果的に子どもからお年寄りまで**全ての市民が暮らしやすいまち**になります。
- 第2次茅野市総合戦略では、**全ての市民にとって便利で快適な暮らしやすいまち**となるために、魅力ある仕事づくりや、子育てのしやすい環境づくり、便利で安全なまちづくり等、**若者の移住・定住を促す環境づくり**に取り組むことで、

「若者に選ばれるまち」の実現を目指します。



第2次茅野市総合戦略の計画期間

計画期間は、令和2年度（2020年度）から令和10年度（2028年度）までとします。

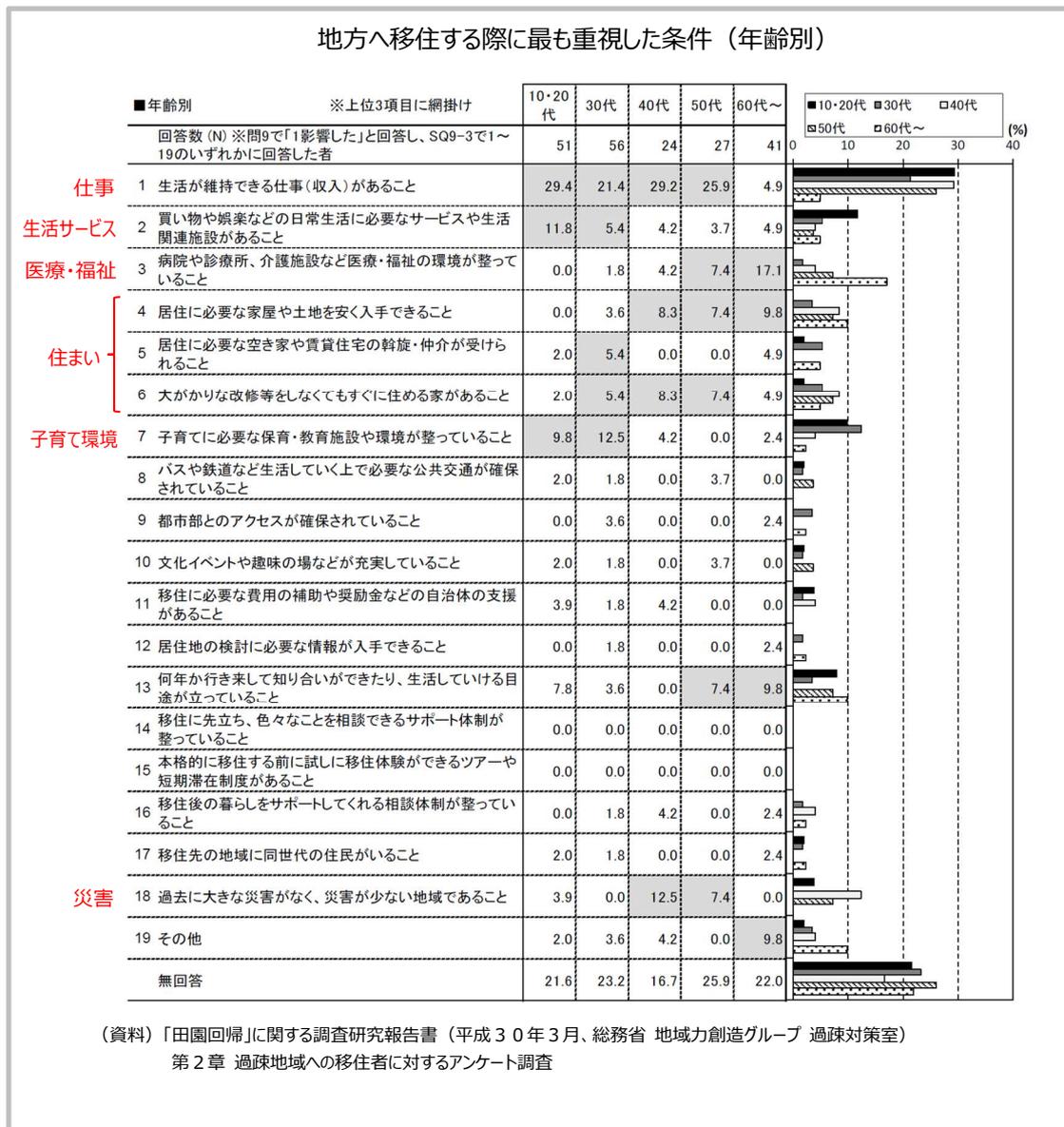
2 施策展開

テーマ

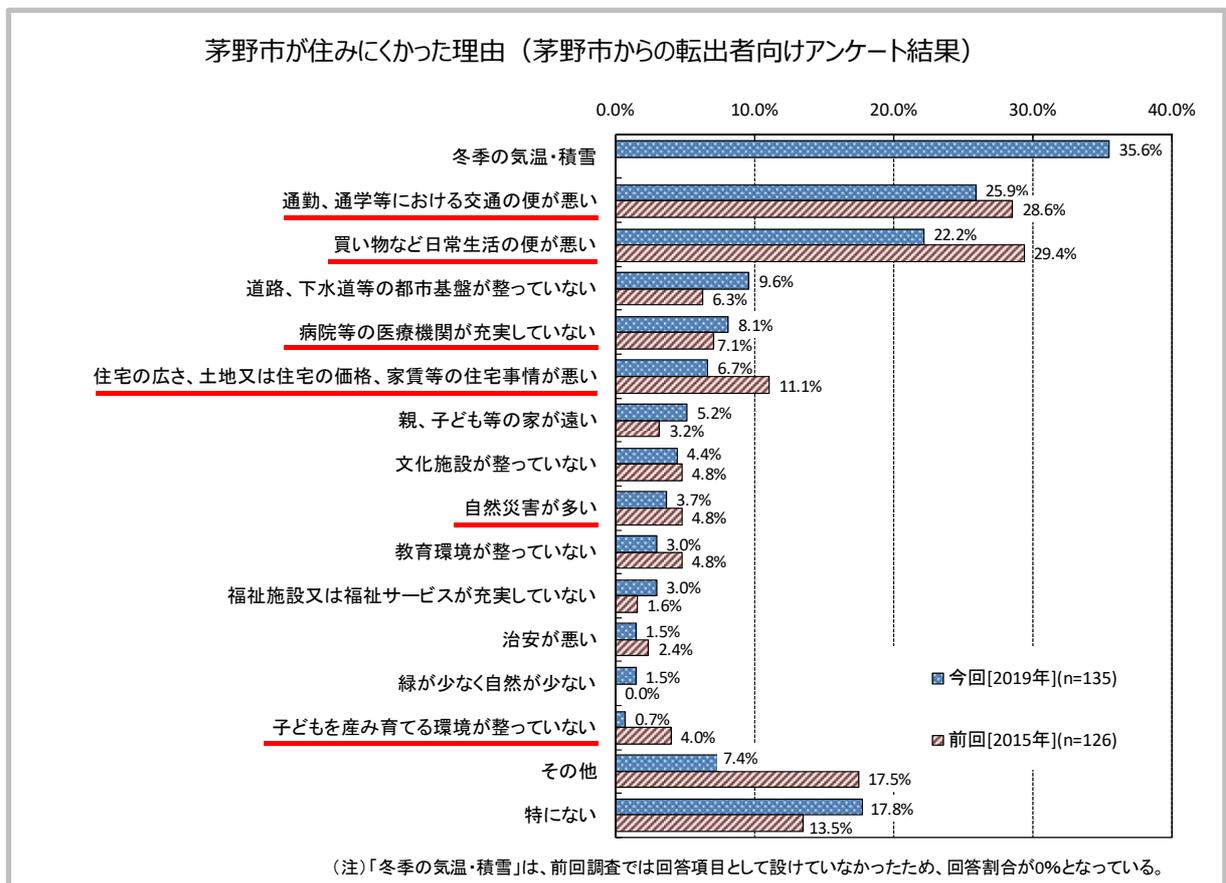
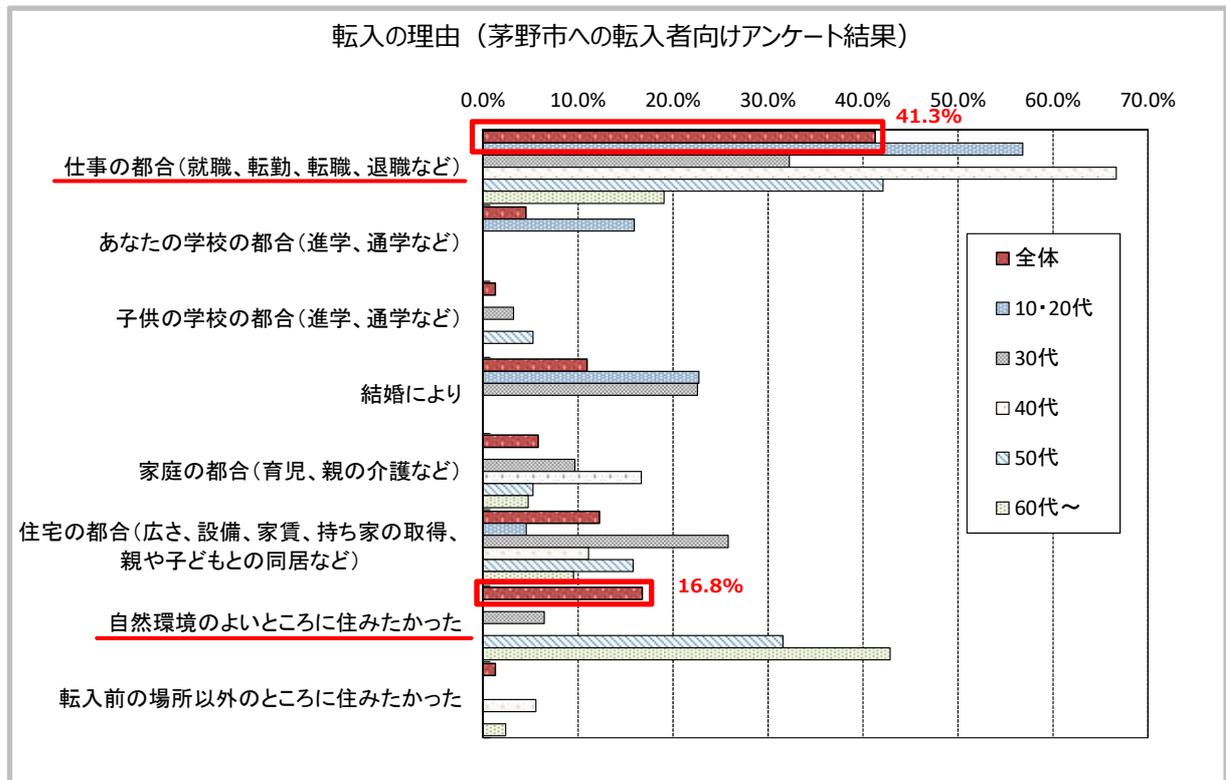
「若者に選ばれるまち」の実現

現状把握

都市部等の在住者が地方に移住するに当たっては、生活を維持するための**仕事**や生活を営む**住まい**があることが重視されています。さらに、仕事や住まいに加えて、10・20代、30代では、**子育て環境**、**生活サービスの充実**が、40代、50代では、**医療・福祉の充実**や、**災害の少なさ**が重視されています。



一方で、茅野市への転入は、**仕事の都合**や、茅野市の**自然環境**に魅力を感じたことが主な理由に挙げられています。また、転出者からは、**子育て環境の充実**や**災害の少なさ**が評価されているものの、**交通の便の悪さ**や、**生活サービス**、**医療機関**、**住まいの不足**に不満を感じていることがうかがえます。



基本コンセプト

茅野市人口ビジョンを踏まえ、**若者が茅野市に流入**することで、経済が活性化し、生活サービスが充実し、住民の負担が減り、結果的に子どもたちからお年寄りまで、**全ての茅野市民が暮らしやすいまち**となることを目指し、「**若者に選ばれるまち**」を実現するため、次の考え方に基づき施策を展開します。

- ・生活を維持するための**仕事**や生活を営む**住まい**の充実。
- ・**生活サービス、医療・福祉**の充実。
- ・**子育て環境、防災対策**の更なる充実。
- ・茅野市の持つ**自然環境**の活用。
- ・持続可能なまちづくりの実現に向けた **SDGs（持続可能な開発目標）**※への意識。
- ・「**ポストコロナ**」の**社会変革への対応**。

※SDGs（持続可能な開発目標）の詳細は、「【資料編①】策定関連資料 6 SDGsとは（P.44）」に記載しています。

施策体系

基本コンセプトにおける考え方を実現するため、**茅野市を知り訪れ、茅野市に通い、茅野市に移り住む**という**人の流れ**を意識し、以下の基本目標を施策として展開するとともに、複数の基本目標にまたがる横断的施策を設定します。

○ 基本目標

基本目標 1	知りたい、訪れたいまちをつくる
基本目標 2	通いたい、帰りたいまちをつくる
基本目標 3	移り住みたい、住み続けたいまちをつくる
基本目標 4	安心して出産・子育てができるまちをつくる
基本目標 5	安心・安全、快適なまちをつくる

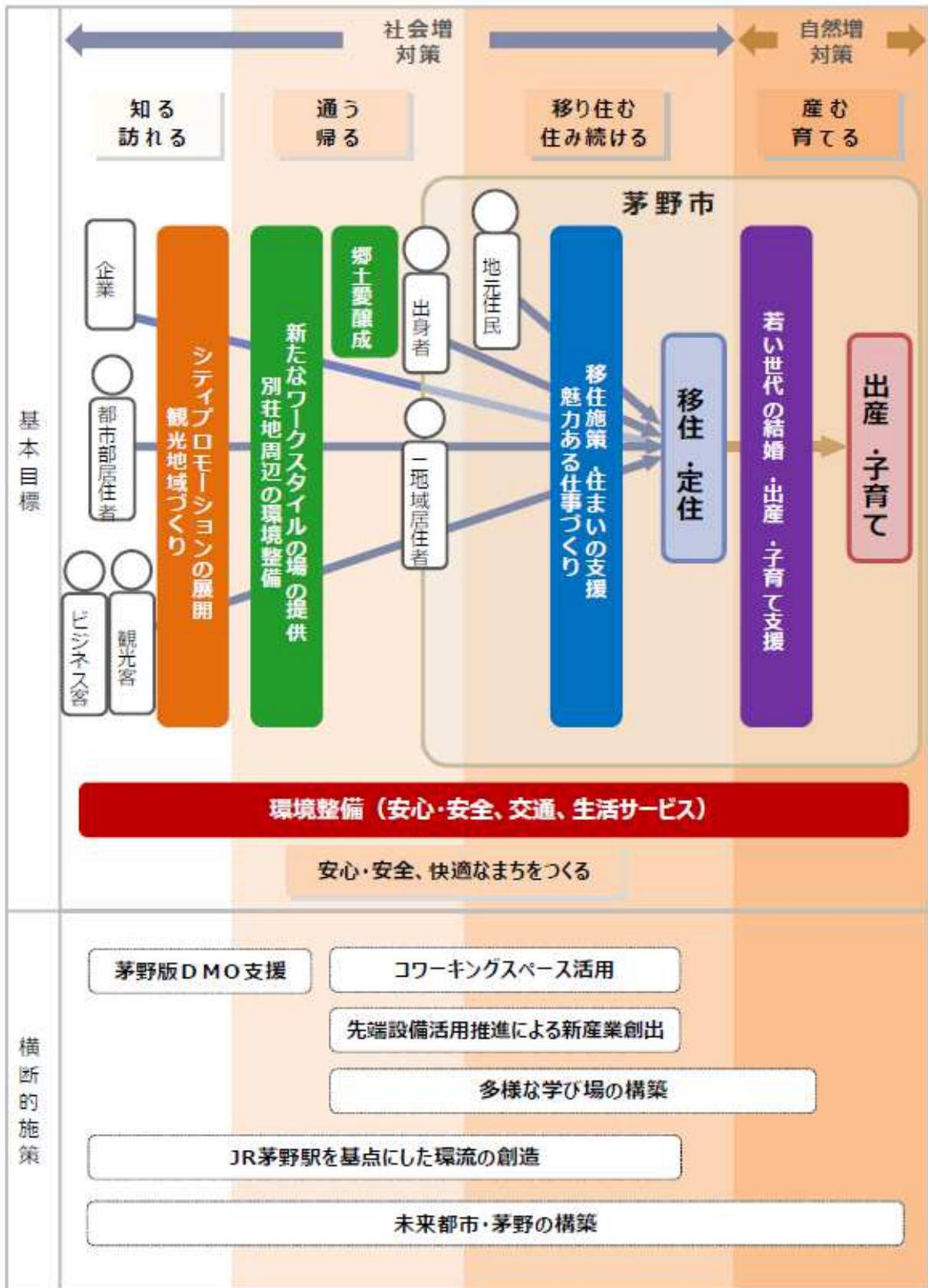
○ 横断的施策

- (1) 茅野版 DMO 支援による新たな交流の創造
- (2) コワーキングスペースの活用による新しい働き方の創出
- (3) 防災・見守りへの先端設備活用連携事業の推進による新たな産業の創出
- (4) 多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造
- (5) JR 茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創造
- (6) 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

「若者に選ばれるまち」となるための施策体系図



「若者に選ばれるまち」の実現に向けたフロー

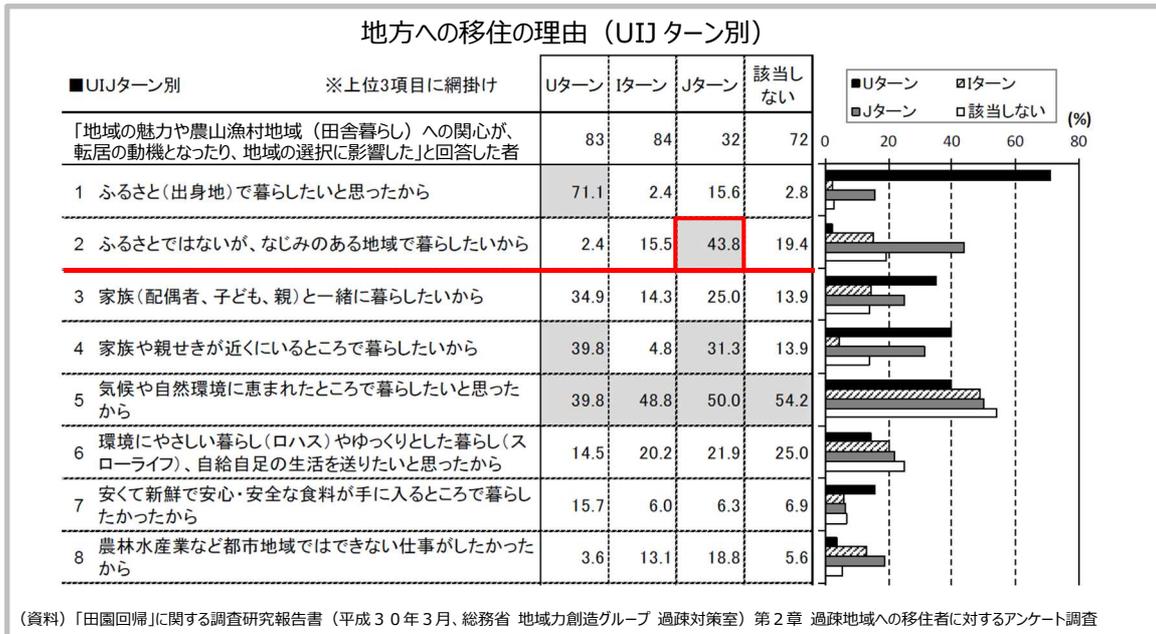


基本目標

基本目標 1

知りたい、訪れたいまちをつくる

- 茅野市の出身ではない若者に移住をしてもらうためには、まず茅野市になじみをもってもらう必要があります。
- その前段階として若者が茅野市を知り、訪れてもらうために、ホームページや SNS を活用したシティプロモーションの展開等による都市部等への情報発信を行うとともに、訪れたい魅力ある観光地域づくりを行い、認知向上と観光客の来訪を目指します。



数値目標

■ 市内観光地延利用者数
目標（令和10年）：4,300,000人

主な重要業績評価指標
(KPI)

- 茅野市観光情報サイトアクセス数
- 蓼科エリア観光地利用者数
- 市内観光消費額

■ 施策パッケージ

茅野市の認知向上に向けた情報発信

- ・ 「若者に選ばれるまち」の実現に向けたシティプロモーションの展開による茅野市の魅力発信事業
- ・ 茅野市観光情報サイト・SNS 運用による情報発信事業
- ・ 縄文を活用したPR事業
- ・ 縄文ふるさと応援団事業
- ・ 縄文ふるさと大使事業
- ・ フィルムコミッション推進事業

茅野市への来訪に向けた誘客促進

- ・ 茅野版DMOとの連携による地域資源を活かした旅行商品造成、拠点整備事業
- ・ 小津安二郎記念・蓼科高原映画祭支援事業
- ・ 交流人口・関係人口創出事業
- ・ モータースポーツを活用した地域振興事業

観光の活性化に向けた環境整備

- ・ 蓼科湖周辺整備事業
- ・ 史跡整備事業
- ・ 八ヶ岳登山道整備事業
- ・ 観光地廃ホテル等対策事業
- ・ 観光地二次交通対策事業
- ・ JR 茅野駅西口エリア活性化推進事業

- ・ 学習協サマーキャンプ・スノーキャンプ実施事業
- ・ 諏訪地方観光連盟との連携事業
- ・ ビーナライン沿線市町との連携事業
- ・ 白樺湖活性化協議会との連携事業
- ・ レイクリゾート構想による関係事業者や立科町との連携事業

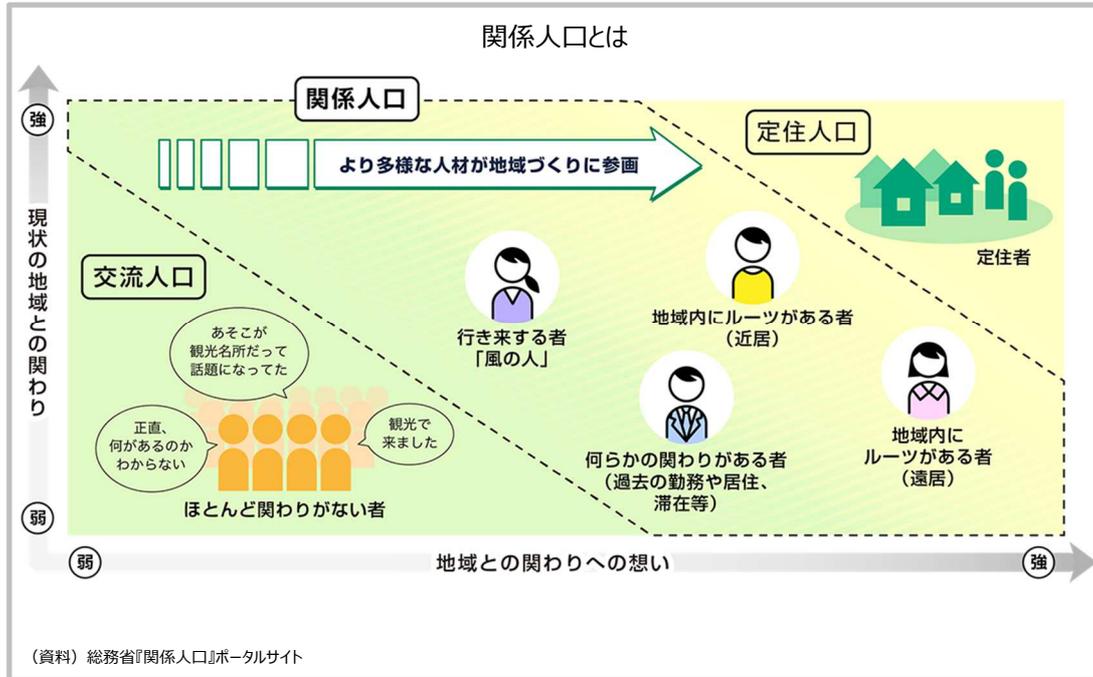
■ 横断的施策

- ・ 茅野版DMO 支援による新たな交流の創造
- ・ JR 茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創造
- ・ 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

基本目標 2

通いたい、帰りたいまちをつくる

- 地域に関わりたいという想いが強くなり、地域との関わりが深くなることで移住・定住につながります。
- 新たな働く場の提供や、別荘地の環境整備により、観光に来た「交流人口」以上、移住した「定住人口」未満である「関係人口」を増やします。
- また、茅野市出身者や、市外から茅野市へ通勤、通学する人の市内定着を目指し、地域への愛着や誇りを醸成する取り組みを行います。



数値目標

- 「将来、茅野市に住みたい」と思う 15 歳～18 歳の割合
目標 (令和 10 年) : 60%

主な重要業績評価指標
(KPI)

- コワーキングスペース売上額
- CHUKO らんどチノチノ利用者数
- 公立諏訪東京理科大学卒業生の諏訪地域内創業・就業者数

■ 施策パッケージ

関係人口の増加に向けたつながりの創出

- ・ 茅野版 DMO との連携による地域資源を活かした旅行商品造成、拠点整備事業
- ・ コワーキングスペース活用事業
- ・ 別荘開発事業者等との連携推進事業
- ・ 交流人口・関係人口創出事業
- ・ モータースポーツを活用した地域振興事業
- ・ 女性起業支援事業
- ・ IT 関連企業誘致の推進事業
- ・ ワークेशन・オフサイトミーティングの推進事業
- ・ サテライトオフィス等誘致事業

地域への愛着や誇りの醸成

- ・ 「若者に選ばれるまち」の実現に向けたシティプロモーションの展開による茅野市の魅力発信事業

地域への愛着や誇りの醸成

- ・ CHUKO らんどチノチノ運営事業
- ・ 生きる力を育む学校づくり事業
- ・ 「縄文科」推進事業
- ・ 読りむ in ちの活動支援事業
- ・ 文化芸術振興事業
- ・ 公民館事業
- ・ 図書館事業
- ・ 八ヶ岳総合博物館事業
- ・ 神長官守矢史料館事業
- ・ 地域スポーツ推進事業
- ・ インターシップ等促進事業
- ・ 防災・見守りへの先端設備活用連携事業
- ・ 地域課題の解決に向けた公立諏訪東京理科大学との連携事業

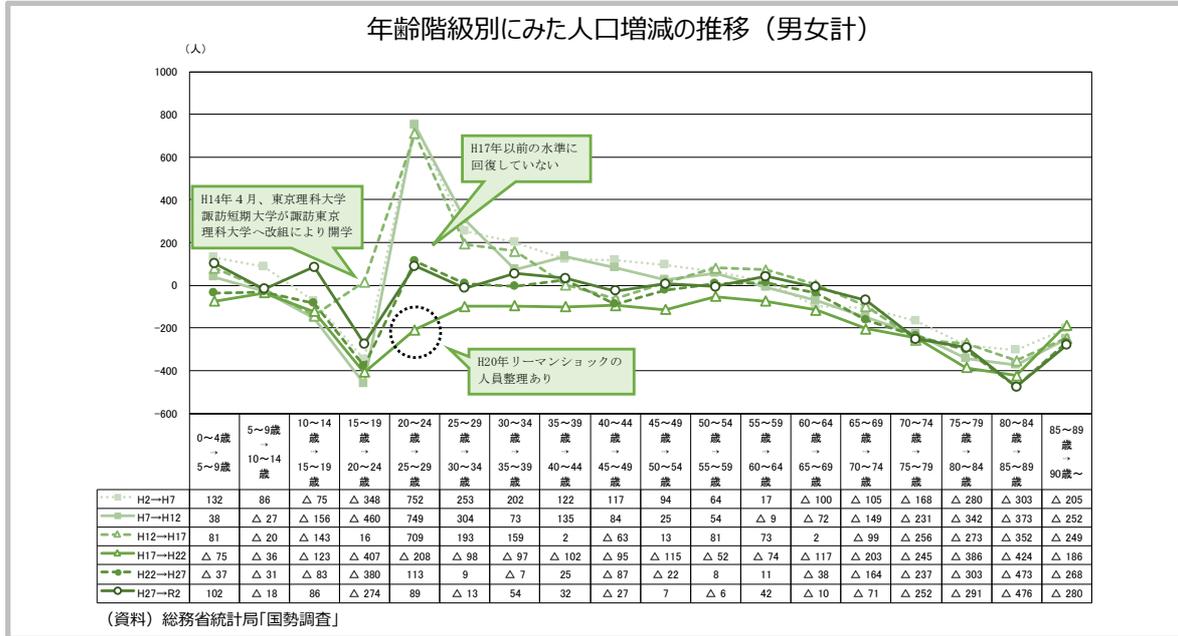
■ 横断的施策

- ・ 茅野版 DMO 支援による新たな交流の創出
- ・ 多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造
- ・ コワーキングスペースの活用による新しい働き方の創出
- ・ JR 茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創造
- ・ 防災・見守りへの先端設備活用連携事業の推進による新たな産業の創出
- ・ 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

基本目標 3

移り住みたい、住み続けたいまちをつくる

- 男女ともに 10 代後半～20 代は人口減少傾向にあります。これは、主に進学や就職が理由と考えられます。
- 魅力ある雇用をつくることで、市外からも若者を呼び込むとともに、若者が茅野市に住み続けるよう促します。
- 一方で、住まいの支援等を行うことで、移住を検討している人を後押しする取組も併せて行います。



数値目標

■ 社会増減数（転入者数－転出者数）
目標（令和 10 年）： 1,881 人（9 年累計）

主な重要業績評価指標
(KPI)

- 新規創業者数
- 市内事業所就業者数
- 田舎暮らし楽園信州ちの協議会を通じた移住・定住件数

■ 施策パッケージ

魅力ある雇用・産業の創出

- ・ 中小企業振興補助制度事業
- ・ 商店街等活性化事業
- ・ 新技術・新製品研究開発支援事業
- ・ 新商品開発支援事業
- ・ コワーキングスペース活用事業
- ・ 創業スクール事業
- ・ 空き店舗等活用事業
- ・ 茅野・産業振興プラザ支援事業
- ・ 防災・見守りへの先端設備活用連携事業
- モノづくり集積地 SUWA のヒトづくりプロジェクト
- ・ NPO 諏訪圏ものづくり推進機構支援事業
- ・ 地域課題の解決に向けた公立諏訪東京理科大学との連携事業

移住・定住情報の発信や住まいの支援

- ・ 田舎暮らし楽園信州ちの協議会の活動支援を通じた情報発信事業
- ・ 諏訪圏移住相談センター支援事業
- ・ 田舎暮らし楽園信州ちの協議会ツアー事業
- ・ 田舎暮らし楽園信州ちの協議会移住体験住宅事業

就労支援と労働環境の整備

- ・ 就業・創業移住支援事業
- ・ 女性起業支援事業
- ・ 雇用促進事業
- ・ インターンシップ等促進事業
- ・ 就農者支援事業
- ・ 農作物目別アドバイザー制度推進事業
- ・ 地域農産物戦略的マーケティング推進事業
- ・ 製造業等労務環境改善等設備促進事業
- ・ 保育所運営事業
- ・ 学童クラブ運営事業

- ・ サンコーボラス旭ヶ丘の入居促進・活用事業
- 住宅団地販売促進事業
- 住宅リフォーム促進事業
- ・ 空家等対策事業

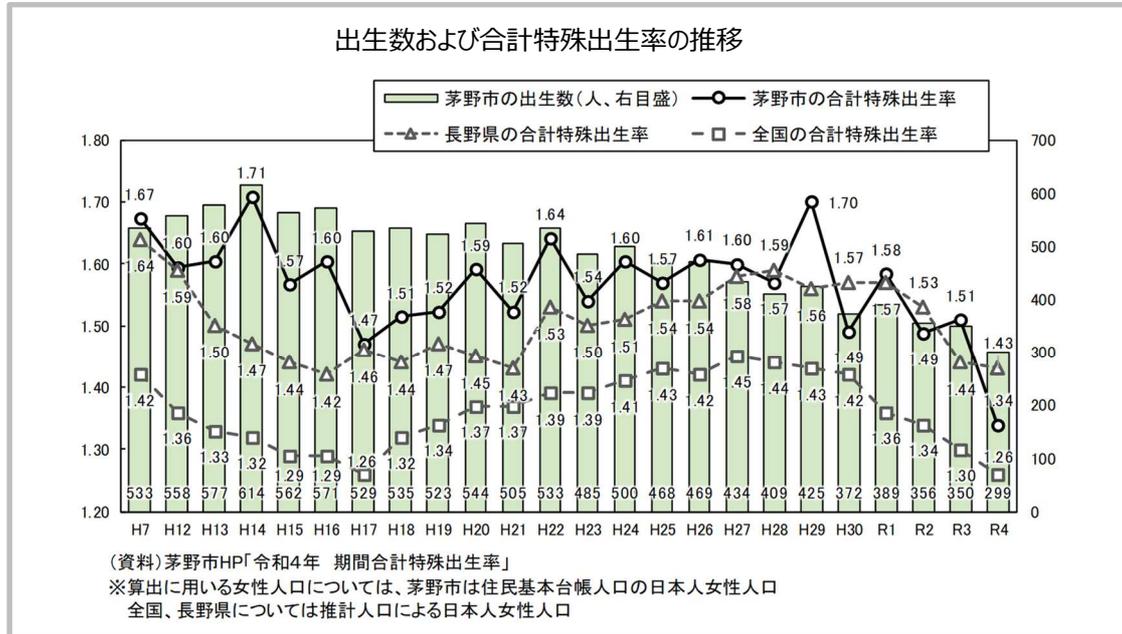
■ 横断的施策

- ・ コワーキングスペースの活用による新しい働き方の創出
- ・ JR 茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創造
- ・ 防災・見守りへの先端設備活用連携事業の推進による新たな産業の創出
- ・ 暮らしやすい未来都市・茅野の構築
- ・ 多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造

基本目標 4

安心して出産・子育てができるまちをつくる

- 茅野市の合計特殊出生率は、全国平均や長野県よりも高い傾向にあります。
- 気軽に相談ができる体制の整備や、経済的な支援等により、妊娠、出産、子育てに係る様々なハードルを下げ、より子育てのしやすいまちとなるよう支援を行います。



数値目標

■ 出生数

目標 (令和 10 年) : 300 人

主な重要業績評価指標
(KPI)

- 人口千人当たりの婚姻件数
- 相談解決の割合
- 育てにくさを感じたとき対処できる親の割合

■ 施策パッケージ

結婚・妊娠・出産の切れ目ない支援

- ・ 出会いの場創出事業
- ・ 不妊及び不育症治療助成事業
- ・ パパママ講座事業
- ・ マタニティ相談事業
- ・ 妊婦一般健康診査事業
- ・ 産婦健康診査事業
- ・ 産後ケア事業

子育て世帯への経済的支援

- ・ 多子世帯保育料軽減事業
- ・ 遠距離通学児童・生徒通学支援事業
- ・ 育英事業
- ・ **教育資金利子補給事業**
- ・ 医療費助成事業

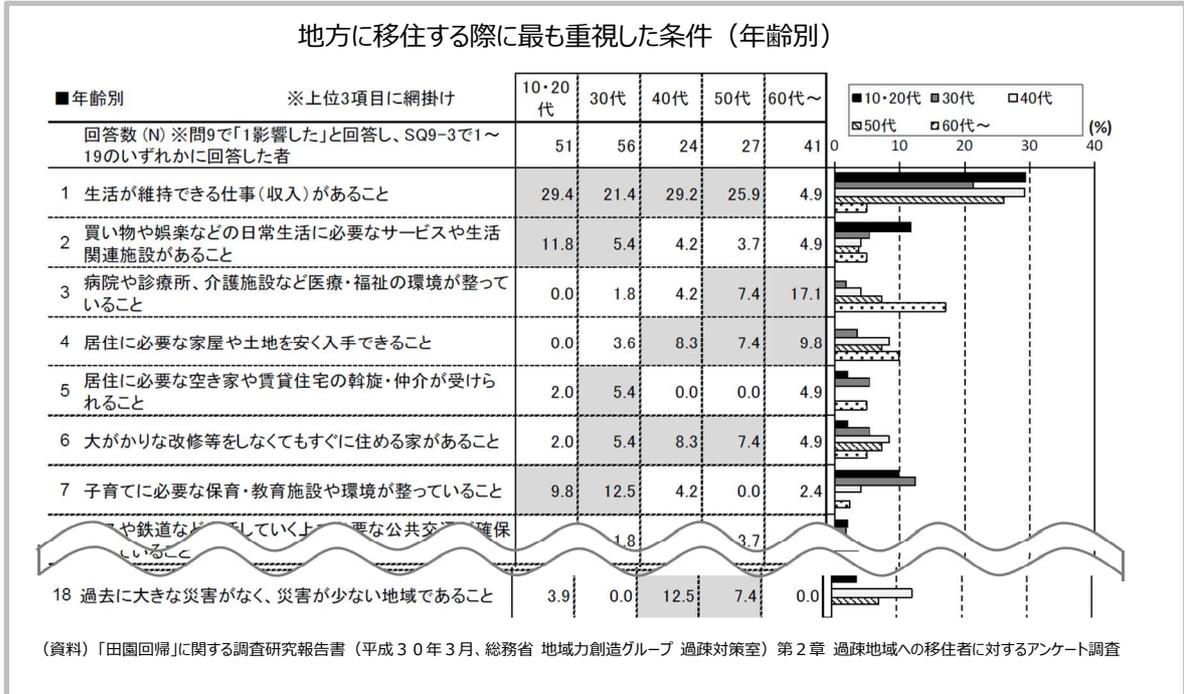
安心して子育てができる環境の整備

- ・ 赤ちゃん訪問事業
- ・ 乳幼児健診事業
- ・ 赤ちゃん相談事業
- ・ 育児相談事業
- ・ **こども家庭センター事業**
- ・ 母子父子に関する相談及び支援事業
- ・ 発達障害等相談支援事業
- ・ ファミリー・サポート・センター事業
- ・ **小児オンライン相談事業**
- ・ **子どもの居場所づくり推進事業**
- ・ 子育て・親育ち支援等講座事業
- ・ 0123 広場運営事業
- ・ 地区こども館運営事業
- ・ 保育園を拠点とする地域子育て支援事業
- ・ 読書推進事業
- ・ 幼保小連携教育推進事業
- ・ 小中一貫教育推進事業
- ・ **国際交流推進事業**

■ 横断的施策

- ・ 多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創造
- ・ 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

- 若者から選ばれるまちとなるためには、「仕事」、「住まい」に加えて、「生活サービス」や「医療・福祉」、「交通」等の日々の暮らしやすさが充実していることも必要です。
- 災害の少ない地域であることも重要視されており、安心・安全なまちづくりを進める必要があります。



数値目標

■ 茅野市の行政サービス全般について満足している市民の割合
目標（令和10年）：令和6年度の割合を上回ること

■ 施策パッケージ

暮らしやすい環境の整備・充足

- ・ 公共交通確保維持改善事業
- ・ JR 茅野駅西口エリア活性化推進事業
- ・ 地域ポイント活用事業
- ・ 地域 DX 推進事業
- ・ 市内 DX 推進事業

地域で支え合う安心・安全なまちづくり

- ・ 地域共生社会の構築に向けた包括的支援事業
- ・ 住民参加型有償サービス支援事業
- ・ 在宅医療・介護の多職種連携推進事業
- ・ 社会福祉協議会との連携による重層的支援体制整備事業
- ・ 自主防災組織活動支援事業
- ・ 消防団活動支援事業
- ・ 避難行動要支援者支援事業
- ・ 防災情報システム運用事業
- ・ 森林経営管理事業
- ・ 地域循環型木材利活用推進事業
- ・ 里山づくり支援事業
- ・ ゼロカーボン推進事業
- ・ エネルギー自立化支援事業
- ・ 公共施設整備事業
- ・ 道路河川等整備事業
- ・ 上下水道施設耐震化事業
- ・ 防災 DX 推進事業

■ 横断的施策

- ・ JR 茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創造
- ・ 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

横断的施策

5つの基本目標の達成に向けて、横断的に取り組む施策は次のとおりです。

(1) 茅野版DMO支援による新たな交流の創造

基本目標
1

基本目標
2

- 茅野市ならではの観光資源を活かした体験交流プログラムの造成や地域との交流拠点の設置等を行うことで、都市部等の若者をはじめとする新たな観光客層が茅野市を**知り、訪れる**ことを目指します。
- 地域住民が体験交流プログラムの担い手となることで、観光客との交流を促し、そのつながりを通して**通いたいまち**となることを目指します。

(2) コワーキングスペースの活用による新しい働き方の創出

基本目標
2

基本目標
3

- 学生・企業・地元住民・別荘利用者等、市内外の様々な人々の交流、協働や、起業・創業・就業を促すことで、**新たな働き方の創出**を目指します。
- コワーキング、テレワーク等の新たなワークスタイルを実現できる環境を整備することで、市外の人が茅野市で働くために**通う**ことを目指します。

(3) 防災・見守りへの先端設備活用連携事業の推進による新たな産業の創出

基本目標
2

基本目標
3

- 公立諏訪東京理科大学を中心として、高度なものづくり技術とIoT通信技術を融合させ、登山者等の見守り、災害発生予測、鳥獣被害対策、農業の省力化等の地域課題の解決を図り、茅野発の新たな**産業の創出**を目指します。
- 大学生が地域と関わることで、茅野市に**住み続ける**ことを目指します。

(4) 多様な学び場の提供による子どもの豊かな生き方の創出

基本目標
4

基本目標
2

基本目標
3

- 子どもたちの様々な興味・関心を引き出すことができ、また、力を発揮していくきっかけとなる学びの場を提供することで、子どもたちが自らの豊かな生き方を茅野市で見つけ、茅野市に**住み続ける**とともに、茅野市を離れても**郷土を想い**、生きていくことを目指します。
- 個性や得意分野を活かし働くことができるような雇用を創出することで、新たな産業を生み出すとともに、茅野市の子どもが茅野市に**住み続ける**ことを目指します。

(5) JR茅野駅を基点に都市部と地方を人が行き交う環流の創造

基本目標
5

基本目標
1

基本目標
2

基本目標
3

- 市内のみならず諏訪地域、上伊那地域、さらには首都圏、中京圏までを含めた**交流**をつなぐ拠点として、またホスピタリティのあふれる茅野市の玄関口としてJR茅野駅**周辺**を整備することで、観光客等が**訪れ、通い、移り住む**ことを目指します。

(6) 暮らしやすい未来都市・茅野の構築

基本目標
1

基本目標
2

基本目標
3

基本目標
4

基本目標
5

- 未来に目を向け、日々進歩する先端の**デジタル技術やデータ**を活用することで、市民目線で**暮らしやすいまちの構築**に向けて**地域DXや庁内DX**の取組を展開します。

高齢者、学生、観光客、別荘利用者等様々な人が、いつでも行きたい場所に行ける交通システムや、日々生活するだけで健康になれるような予防医療の仕組みの構築等、住んでよかったと誇りに思える暮らしやすいまちを構築するための新たなサービスの展開

- 新たな技術が地域内に持ち込まれることで、付加価値の高い**新たな産業と雇用の創出**を目指します。

「若者に選ばれるまち」のイメージ

- 「若者に選ばれるまち」の実現に向け、市外の人や企業を市内に呼び込む流れ（茅野市を知り、訪れ、通い、住む）を意識した基本目標の設定と関連する取組を推進することは、**交流**の促進につながります。
- 一方で、第6次茅野市総合計画では、「**幸せを実現できるまち**」をまちづくりの普遍的なテーマに掲げており、幸せを実現する原動力として**3つの交流**の姿を描いています。その一つに「**若者に選ばれるまち**」の実現を通じた**交流**が位置付けられています。
- そこで、第6次茅野市総合計画において示した**交流**を軸とした**まちづくりのイメージ**を以下のとおり共有し、「**幸せを実現できるまち**」の創造を意識しながら、「**若者に選ばれるまち**」の実現に向けた取組を進めていきます。

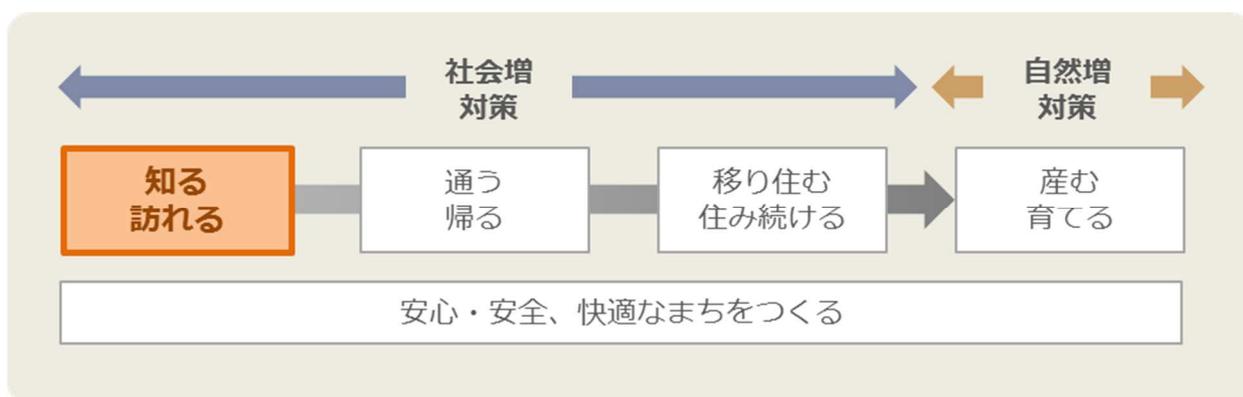


3 具体的施策

基本目標 1

知りたい、訪れたいまちをつくる

■この目標が目指すフェーズ



■基本的な方向

- 茅野市が「若者に選ばれるまち」となるためには、まず茅野市のことを知ってもらう必要があります。茅野市を多くの人を知り、来訪を促すため、戦略的な情報発信を行うことで茅野市の認知向上につなげます。
- 観光施設等のハード整備や、訪れた人が市内観光地等へスムーズに移動できる二次交通、三次交通を確保するなど、来訪者を受け入れるための環境整備を通じた魅力ある観光地域づくりを実現し、観光の活性化につなげます。
- 茅野版 DMO（（一社）ちの観光まちづくり推進機構）と連携し、地域資源を活かした、魅力ある観光地域づくりを行うことで、多くの観光客の来訪を促します。

■数値目標

指標名	現状値	目標値（令和 10 年）
市内観光地延利用者数	3,301,500 人	4,300,000 人

① 茅野市の認知向上に向けた情報発信

シティプロモーションの展開により、茅野市観光情報サイト「茅野観光ナビ」や「ちの旅」等のホームページ、SNS を戦略的に活用し、茅野市の魅力を国内外に広く発信することで、茅野市の認知向上につなげます。

また、茅野市民や茅野市に縁のある著名人に、茅野市の魅力を PR していただくことで、人と人とのつながりにより、茅野市のことを知るきっかけをつくります。

併せて、諏訪圏フィルムコミッションが中心に進めている映画等の撮影や、諏訪地域でロケが行われた作品の公開に協力することで、茅野市の存在を全国的に広めます。

事業の内容

■ ホームページや SNS における情報発信

- ・ 「若者に選ばれるまち」の実現に向けたシティプロモーションの展開による茅野市の魅力発信事業
- ・ 茅野市観光情報サイト・SNS 運用による情報発信事業
- ・ 縄文を活用した PR 事業

■ 茅野市内外の人による茅野市の情報発信

- ・ 縄文ふるさと応援団事業
- ・ 縄文ふるさと大使事業

■ フィルムコミッションの推進による情報発信

- ・ フィルムコミッション推進事業

重要要素評価指標 (KPI)	現状値	数値目標 (令和 10 年)
茅野市観光情報サイトアクセス数	810,000 件	2,000,000 件
茅野市 SNS リーチ件数	108,864 件	1,000,000 件
担当部署	地域創生課 観光課 文化財課	

②観光の活性化に向けた環境整備

市内観光の活性化に向けては、来訪者が快適に観光施設を利用できるハード面の整備を行い、来訪者の満足度を高めることも必要です。市内の観光施設等を整備し、魅力ある観光地域づくりを進めるとともに、観光地へのアクセスの確保に向けて二次交通の対策を進めます。

事業の内容

■市内観光拠点施設等の整備

- ・ 蓼科湖周辺整備事業
- ・ 史跡整備事業
- ・ 八ヶ岳登山道整備事業
- ・ 観光地廃ホテル等対策事業
- ・ 観光地二次交通対策事業
- ・ J R 茅野駅西口エリア活性化推進事業

重要要素評価指標（KPI）	現状値	数値目標（令和 10 年）
蓼科エリア観光地利用者数	1,495,100 人	1,871,400 人
尖石縄文考古館来館者数	56,953 人	60,000 人
担当部署	観光課 文化財課 都市計画課	

③茅野市への来訪に向けた誘客促進

茅野版 DMO（（一社）ちの観光まちづくり推進機構）と連携し、八ヶ岳に育まれた豊かな自然環境や、縄文文化等を始めとする歴史・文化等、この地域ならではの魅力ある地域資源を活かした旅行商品を造成することで、誘客につなげます。

また、諏訪圏域、ビーナスライン、白樺湖といった共通するストーリー性を持った観光地について、行政の枠を超えて広域に連携、協力し、一元的な誘客に取り組みます。

一方、学習旅行の誘致により、茅野市を訪れた子どもたちが大人になってから再び茅野市を訪れるきっかけを作り、将来的な来訪者の獲得につなげます。

事業の内容

■ 地域資源を活かした誘客の促進

- ・ 茅野版 DMO との連携による地域資源を活かした旅行商品造成、拠点整備事業
- ・ 小津安二郎記念・蓼科高原映画祭支援事業
- ・ 交流人口・関係人口創出事業
- ・ モータースポーツを活用した地域振興事業

■ 学習旅行の誘致による誘客の促進

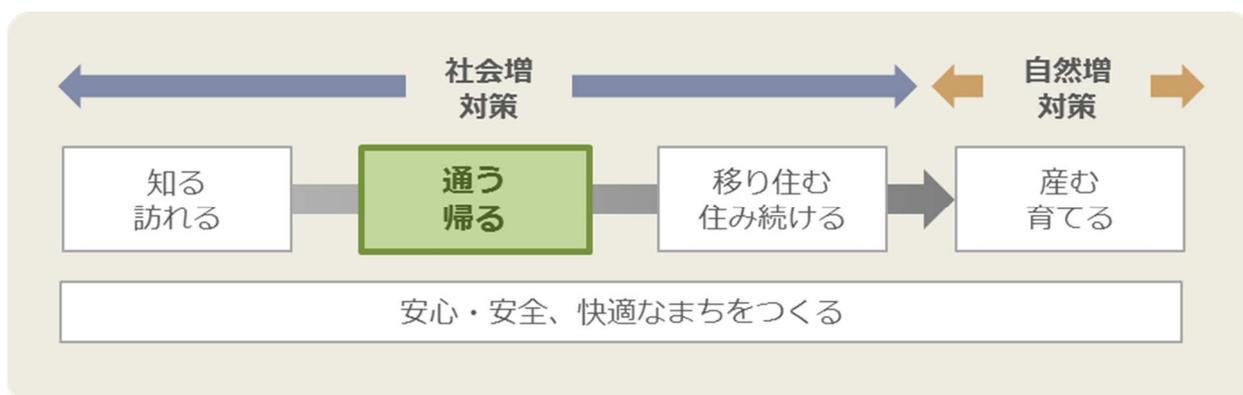
- ・ 学習協サマーキャンプ・スノーキャンプ実施事業

■ 広域観光連携の推進

- ・ 諏訪地方観光連盟との連携事業
- ・ ビーナスライン沿線市町との連携事業
- ・ 白樺湖活性化協議会との連携事業
- ・ レイクリゾート構想による関係事業者や立科町との連携事業

重要要素評価指標（KPI）	現状値	数値目標（令和 10 年）
市内観光消費額	1,046,730 万円	1,436,900 万円
担当部署	観光課 地域創生課 商工課	

■この目標が目指すフェーズ



■基本的な方向

- 来訪者が茅野市に通うためには、この地域の人や暮らしと関わりを持ち、そのつながりが目的となることで、より深く地域と関わりたいという想いを喚起することが必要です。
- 暮らすような旅を通じた地域住民と来訪者との交流や、市内外のコワーキングスペース利用者同士の交流により新たなつながりを生み出します。
- 環境整備により別荘地周辺の魅力を向上することで、新たな別荘所有者の獲得につなげ、別荘を通じた新たなつながりを生み出します。
- 茅野市出身者がいずれ茅野市に帰ってきたいと思えるように、郷土愛の醸成や、公立諏訪東京理科大学学生の定着に向けた起業・創業等の支援を行うことで、茅野市とつながり続けることを目指します。

■数値目標

指標名	現状値	目標値（令和10年）
「将来、茅野市に住みたい」と思う 15歳～18歳の割合	36.7%	60%

① 関係人口の増加に向けたつながりの創出

地域の人と関わりながら茅野市の自然環境や歴史・文化を体験できる、まさに暮らすように旅ができる旅行商品の造成を行うとともに、地域の人と関わるができる観光拠点の整備を進め、観光を通じた、地域住民と来訪者との交流を生み出します。

一方、ICT の進展により、テレワークやリモートワーク等、場所に縛られない新しい働き方を行う人たちが増えてきています。コワーキングスペース「ワークラボ八ヶ岳」を拠点に新しい働き方を実現できる場を提供することで、茅野市とつながる人を増やすとともに、コワーキングスペース利用者同士の新たな人と人との交流を生み出します。

また、茅野市は、その豊かな自然環境により、古くから別荘地としてにぎわってきました。別荘地周辺の環境整備を進めるとともに、別荘開発事業者等と連携し別荘利用者が楽しめるプログラム等を提供することで、別荘地の魅力をさらに高め、二地域居住地として選ばれる別荘地となることを目指します。

事業の内容

■ 交流拠点の整備

- ・ 茅野版 DMO との連携による地域資源を活かした旅行商品造成、拠点整備事業
- ・ コワーキングスペース活用事業

■ 別荘地周辺の魅力向上による別荘の利用促進

- ・ 別荘開発事業者等との連携推進事業

■ 関係人口の増加に向けた魅力の創出

- ・ 交流人口・関係人口創出事業
- ・ モータースポーツを活用した地域振興事業
- ・ 女性起業支援事業
- ・ IT 関連企業誘致の推進事業
- ・ ワークेशन・オフサイトミーティングの推進事業
- ・ サテライトオフィス等誘致支援事業

重要要素評価指標 (KPI)	現状値	数値目標 (令和 10 年)
コワーキングスペース売上額	7,476 千円	14,420 千円
別荘地の水道使用量	262,925 立方メートル	263,000 立方メートル
担当部署	観光課 商工課 地域創生課	



②地域への愛着や誇りの醸成

茅野市の若者が増えるためには、高校・大学等への進学や就職等で一旦茅野市を離れても、いずれ茅野市に帰ってきてくれることも必要です。子どもたちがまちづくりに主体的に参加する機会の提供や、中高生の居場所となる施設の設置、茅野市の地域資源を活かした教育等により、地域を知り、地域の人とつながることを通して、地域への愛着や誇りを醸成し、若者の U ターンにつなげます。

一方で、公立諏訪東京理科大学には市外の学生が多く在籍しています。学生が学び、暮らすこの地域で、キャリアデザイン力を身につけるとともに、地域への愛着を醸成し、最終的に起業・創業・就業のいずれかの形で市内への定着を促します。

事業の内容

■ 郷土愛の醸成による茅野市出身者の U ターン促進

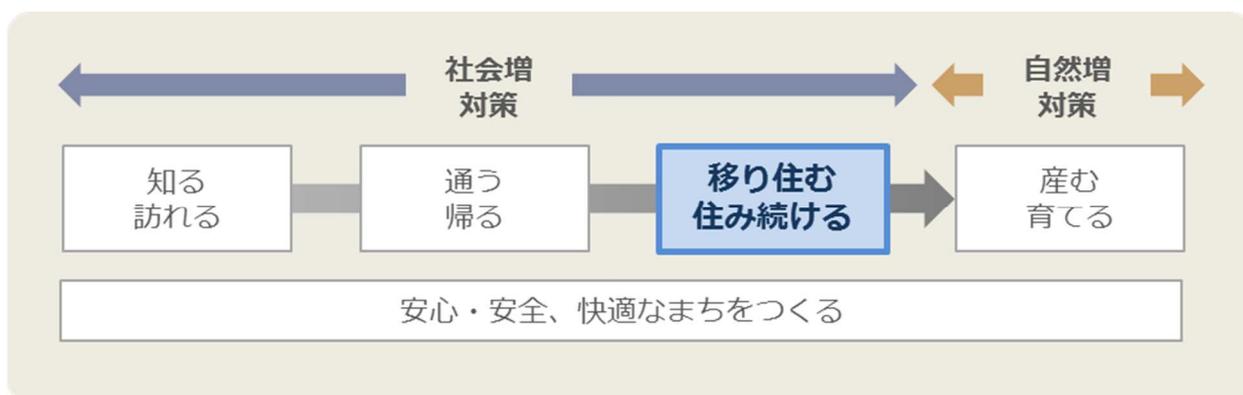
- ・ 「若者に選ばれるまち」の実現に向けたシティプロモーションの展開による茅野市の魅力発信事業
- ・ CHUKO らんどチノチノ運営事業
- ・ 生きる力を育む学校づくり事業
- ・ 「縄文科」推進事業
- ・ 読み-む in ちの活動支援事業
- ・ 文化芸術振興事業
- ・ 公民館事業
- ・ 図書館事業
- ・ 八ヶ岳総合博物館事業
- ・ 神長官守矢史料館事業
- ・ 地域スポーツ推進事業

■ 公立諏訪東京理科大学学生の定着促進

- ・ インターンシップ等促進事業
- ・ 防災・見守りへの先端設備活用連携事業
- ・ 地域課題の解決に向けた公立諏訪東京理科大学との連携事業

重要要素評価指標 (KPI)	現状値	数値目標 (令和 10 年)
CHUKO らんどチノチノ利用者数	13,909 人	17,000 人
公立諏訪東京理科大学卒業生の 諏訪地域内創業・就業者数	28 人 (令和 5 年度実績値)	23 人
担当部署	地域創生課 こども課	学校教育課 生涯学習課 文化財課 スポーツ健康課 商工課

■この目標が目指すフェーズ



■基本的な方向

- 「若者に選ばれるまち」となり、移住・定住を促すためには、その人が働きたいと思えるような魅力ある「仕事」や茅野市で暮らすための「住まい」、そして茅野市の「情報」が必要です。
- 企業の設備投資、研究開発や、創業支援を通じて魅力ある雇用を生み出すことで、若者が仕事に対し多くの選択肢を持てるような環境をつくとともに、産業間等の連携による付加価値の高い雇用創出と産業の新陳代謝の促進を促します。
- 子育て中の女性や就農希望者等の就労支援や起業・創業支援、労務環境の整備を促すことで、誰もが働きやすい環境の整備を進めます。
- 市外からの転入者は 2,000 名程度いるものの[※]、若者に選ばれる移住候補地となり、さらなる移住を促すため、関係団体と連携し、移住・定住相談窓口の設置や一元的な情報発信、移住者や若者の「住まい」の確保を支援します。

■数値目標

指標名	現状値	目標値（令和 10 年）
社会増減数 （転入者数－転出者数）	115 人（5 年累計）	1,881 人（9 年累計）

※地域間の人口移動の状況は、「【資料編②】2 茅野市の人口の現状分析（2） - ③ - イ（P.54）」に記載しています。



① 魅力ある雇用・産業の創出

市内中小企業者等が行う工場新設・増設等の設備投資や、新技術・新製品の研究開発、茅野市の地域資源を活かした商品開発への支援を通じて、若者にとって魅力のある新たな雇用や産業の創出を促します。

意欲ある起業・創業希望者に対するコワーキングスペース等におけるワンストップ型の支援や、空き店舗等を活用して新たに出店する事業者に対する支援を通じて、新規事業者による新たな雇用を生み出します。

また、茅野・産業振興プラザを拠点とした産業間連携を促すとともに、公立諏訪東京理科大学を中心とした産学公連携体制により、IoT 通信技術を活用した地域課題の解決に取り組むことで、付加価値の高い雇用の創出と産業の新陳代謝を促します。

事業の内容

■ 既存企業の支援による新たな産業と雇用の創出

- ・ 中小企業振興補助制度事業
- ・ 商店街等活性化事業
- ・ 新技術・新製品研究開発支援事業
- ・ 新商品開発支援事業

■ 創業支援による多様な就労環境の創出

- ・ コワーキングスペース活用事業
- ・ 創業スクール事業
- ・ 空き店舗等活用事業

■ 付加価値の高い雇用の創出と産業の新陳代謝の促進

- ・ 茅野・産業振興プラザ支援事業
- ・ 防災・見守りへの先端設備活用連携事業
- ・ **モノづくり集積地 SUWA のヒトづくりプロジェクト**
- ・ NPO 諏訪圏ものづくり推進機構支援事業
- ・ 地域課題の解決に向けた公立諏訪東京理科大学との連携事業

重要要素評価指標 (KPI)	現状値	数値目標 (令和 10 年)
設備投資促進支援件数	23 件	23 件
新規創業者数	19 人 (5 年平均)	20 人 (5 年平均)
市内製造業従業者数	8,932 人	8,932 人
担当部署	商工課	



②就労支援と労働環境の整備

市内での就業や創業の希望者に対する支援を行うことで市外からの就労を呼び込むとともに、子育て中の女性や障害者等を雇用した企業に対する支援を行い、多様な人材が就労しやすい環境をつくります。

また、茅野市独自の制度である品目別アドバイザー制度を活用し、就農に関する具体的なアドバイスや、市内で活躍している新規就農者の状況を伝えることで、就農希望者が就農しやすい環境をつくります。

一方で、市内製造業等の中小企業者が行う労務環境の整備を支援することで、誰もが働きやすい環境の整備を促します。

併せて、ファミリー・サポートによる相互援助の子育て支援や、安心して子どもを預けられる学童クラブ、保育所の運営等、子育てをしながら働くことができる環境を整えます。

事業の内容

■多様な人材が就労しやすい環境整備

- ・ 就業・創業移住支援事業
- ・ 女性起業支援事業
- ・ 商店街等活性化事業
- ・ 雇用促進事業
- ・ インターンシップ等促進事業
- ・ 就農者支援事業
- ・ 農作物品目別アドバイザー制度推進事業
- ・ 地域農産物戦略的マーケティング推進事業

■誰もが働きやすい労働環境整備

- ・ 製造業等労務環境改善等設備促進事業

■子育てをしながら働くことのできる環境整備

- ・ 保育所運営事業
- ・ 学童クラブ運営事業

重要要素評価指標 (KPI)	現状値	数値目標 (令和 10 年)
市内事業所就業者数	25,435 人	25,435 人
新規就農者数	18 人 (5 年累計)	45 人 (9 年累計)
待機児童数	0 人	0 人
担当部署	商工課 農林課	幼児教育課 こども課

③ 移住・定住情報の発信や住まいの支援

田舎暮らし楽園信州ちの協議会や諏訪圏移住相談センターによる、移住・定住に関するワンストップ相談窓口の設置・運営や、ホームページ・SNS を活用した移住・定住の一元的な情報発信、イベントの開催等を支援することにより、都市部等の若者から移住候補地として選ばれる茅野市を目指します。

茅野市での生活を安価に体験できる移住体験住宅の提供を行うとともに、サンコーポラス旭ヶ丘への入居支援や空家等の利活用の推進を行うことで、若者のニーズに合った「住まい」の確保を支援し、移住・定住の促進につなげます。

事業の内容

■ 移住・定住に関する窓口の設置や情報発信

- ・ 田舎暮らし楽園信州ちの協議会の活動支援を通じた情報発信事業
- ・ 諏訪圏移住相談センター支援事業
- ・ 田舎暮らし楽園信州ちの協議会ツアー事業

■ 移住希望者に対する住まい等の支援

- ・ 田舎暮らし楽園信州ちの協議会移住体験住宅事業
- ・ サンコーポラス旭ヶ丘の入居促進・活用事業

←住宅団地販売促進事業

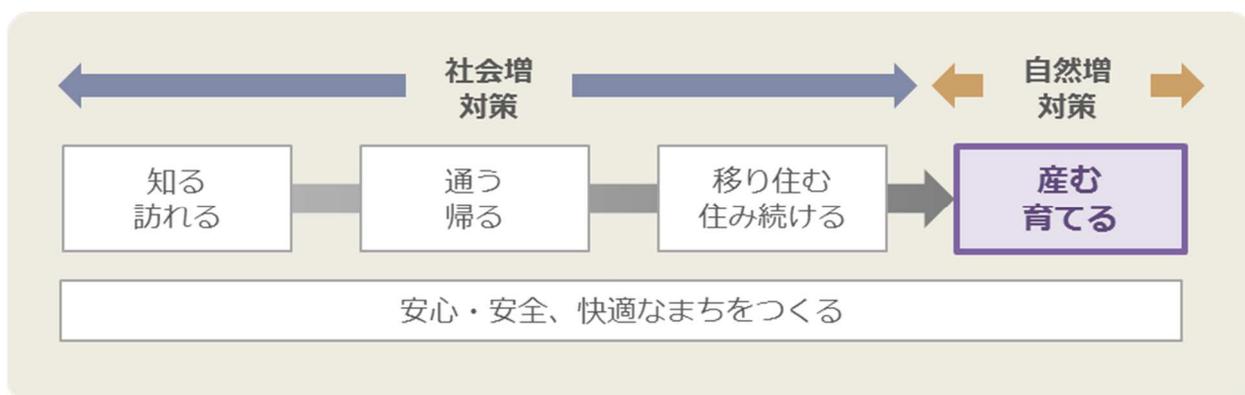
←住宅リフォーム促進事業

- ・ 空家等対策事業

重要要素評価指標 (KPI)	現状値	数値目標 (令和 10 年)
田舎暮らし楽園信州ちの協議会の実施するツアーへの参加者数	130 人 (43 人)	100 人 (30 人)
田舎暮らし楽園信州ちの協議会を通じた移住・定住件数	52 件 (7 件)	70 件 (30 件)
住宅施策に係る支援を受けた移住・定住世帯数	28 世帯 (19 世帯)	50 世帯 (30 世帯)
担当部署	地域創生課 都市計画課	

() 内は、15 歳以上 45 歳未満の数値

■この目標が目指すフェーズ



■基本的な方向

- 「若者に選ばれるまち」となるためには、安心して妊娠、出産、子育てができるまちであることが必要です。
- 出会いの場の創出による婚活支援を行います。そして、妊娠・出産に向けた母子の健康に関わる事業の充実、経済的な支援によって、結婚・妊娠・出産・子育てまでを切れ目なく支援します。
- 妊娠、出産、子育てに関して気軽に相談できる体制の整備を行うとともに、親同士の交流のきっかけをつくることで、子育てに向き合う仲間づくりを促し、子育ての不安を軽減します。
- 子育て世帯への経済的支援を行うことで、子育ての不安を取り除き、誰もが子育てに希望を持てる環境をつくれます。

■数値目標

指標名	現状値	目標値（令和10年）
出生数	310人（令和5年度実績値）	300人

① 結婚・妊娠・出産の切れ目ない支援

広域的な連携を含めた出会いの機会を増やす婚活支援事業を実施します。

不妊症等に悩む夫婦に対する治療費の助成、出産までの身体の変化や今後の支援等について事前に知ることができるパパママ講座、出産後の育児に対する不安への対応や育児方法の習得のために、産科への宿泊や相談ができる産後ケアの環境を整える等、結婚から妊娠、出産、産後まで切れ目ない支援を行うことで、安心して子どもを産み、育てられる環境をつくれます。

事業の内容

■ 結婚・妊娠・出産支援

- ・ 出会いの場創出事業
- ・ 不妊及び不育症治療助成事業
- ・ パパママ講座事業
- ・ マタニティ相談事業
- ・ 妊婦一般健康診査事業
- ・ 産婦健康診査事業
- ・ 産後ケア事業

重要要素評価指標 (KPI)	現状値	数値目標 (令和 10 年)
人口千人当たりの婚姻件数	5.8 件	7 件
産後ケア事業の利用率	47.5% (令和 5 年度実績値)	87%
担当部署	地域創生課 健康づくり推進課	



②安心して子育てができる環境の整備

赤ちゃん訪問、乳幼児健診、赤ちゃん相談、地区での育児相談等、身近な場で相談支援が受けられる環境を整えます。また、子育てに関する総合的な窓口である**こども家庭センター**「育ちあいちの」等、出産、子育てに関して気軽に相談できる体制整備を行うことで、出産、子育ての不安を軽減し、産みたい、育てたいという意識の高揚を図ります。

子育て支援講座や、NP（ノーバディーズ・パーフェクト）プログラム講座等の実施により、親が、子育ての知識、子どもとの関わり方を学ぶとともに、0123 広場や地区こども館といった、親子がいつでも自由に集える場、親子のふれあいの場を整備することで、親同士の交流のきっかけをつくり、子育ての悩みを共有し励ましあえる仲間づくりを促し、子育ての不安を軽減します。

また、幼保小連携教育、小中一貫教育等を推進し、子どもたちの「生きる力」を育てます。

事業の内容

■ 相談・訪問体制の充実

- ・ 赤ちゃん訪問事業
- ・ 乳幼児健診事業
- ・ 赤ちゃん相談事業
- ・ 育児相談事業
- ・ **こども家庭センター**事業
- ・ 母子父子に関する相談及び支援事業
- ・ 発達障害等相談支援事業
- ・ ファミリー・サポート・センター事業
- ・ **子どもの居場所づくり推進事業**
- ・ **小児オンライン相談事業**

■ 子育ての仲間づくりの促進

- ・ 子育て・親育ち支援等講座事業
- ・ 0123 広場運営事業
- ・ 地区こども館運営事業
- ・ 保育園を拠点とする地域子育て支援事業

■ 「生きる力」を育てる教育の推進

- ・ 読書推進事業
- ・ 幼保小連携教育推進事業
- ・ 小中一貫教育推進事業
- ・ **国際交流推進事業**

重要要素評価指標（KPI）	現状値	数値目標（令和10年）
育てにくさを感じたとき対処できる親の割合	77.2%	90%
相談解決の割合	100%	100%
担当部署	健康づくり推進課 保健福祉サービスセンター	生涯学習課 幼児教育課
	学校教育課 地域創生課	こども課

③子育て世帯への経済的支援

多子世帯の保育料や子どもの医療費等に対し支援を行うことで、子育て世帯の経済的負担を軽減し、誰もが子育てに希望が持てる環境をつくります。

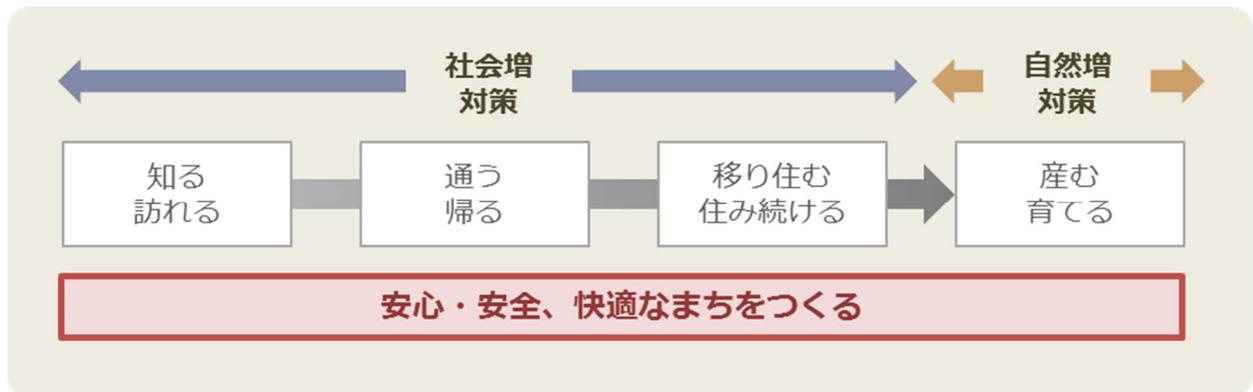
事業の内容

■ 保育料・医療費等子育て世帯への経済的支援

- ・ 多子世帯保育料軽減事業
- ・ 遠距離通学児童・生徒通学支援事業
- ・ 育英事業
- ← 教育資金利子補給事業
- ・ 医療費助成事業

重要要素評価指標 (KPI)	現状値	数値目標 (令和 10 年)
茅野市は子育て支援・補助が手厚いと感じている市民の割合	2.84 (令和 5 年度実績値)	4.0
担当部署	幼児教育課 学校教育課 地域創生課 保険課	

■この目標が目指すフェーズ



■基本的な方向

- 「若者に選ばれるまち」となるためには、交通等の「生活サービス」や、「医療・福祉」が充実し、A I・I o T 技術も活用した便利で快適なまちであることが必要です。また、近年、大きな震災や台風による被害の発生もあり、災害に強い地域であることも求められています。
- 都市部とのアクセスも含めた「交通」の充実や、将来を見据え、デジタル技術やデータも活用しながら、市民の利便性向上を図り、便利で快適なまちづくりを進めます。
- 関係機関と連携した地域医療の充実や、地域コミュニティも含めた地域における防災機能の充実により、地域で支え合える安心・安全なまちづくりを進めます。

■数値目標

指標名	現状値	目標値（令和 10 年）
茅野市の行政サービス全般について満足している市民の割合	なし（令和 5 年度実績値）	令和 6 年度の割合を上回ること



①暮らしやすい環境の整備・充足

利用者のニーズに合った交通手段の確保や、茅野市の玄関口である JR 茅野駅周辺の整備により都市部等と地方をつなぐ広域的な交通結節点としての機能強化を行います。また、地域ポイントの活用については、市民等のニーズを把握しつつ、構築を検討します。

事業の内容

■暮らしを支える基礎となる環境の整備・充足

- ・ 公共交通確保維持改善事業
- ・ J R 茅野駅西口エリア活性化推進事業
- ・ 地域ポイント活用事業
- ・ 地域 DX 推進事業
- ・ 庁内 DX 推進事業

担当部署

地域創生課
都市計画課
商工課
DX推進課



②地域で支え合う安心・安全なまちづくり

諏訪中央病院、[社会福祉協議会](#)等、地域医療の拠点や、「医療・福祉・保健」が連携した包括的な支援、サービス体制を構築します。また、病院、買い物等への住民参加型福祉サービスに対する支援により、地域で支え合うまちづくりを進めます。

また、自主防災組織が実施する防災訓練や、消防団の活動等、地域の防災活動に対する支援を行うとともに、災害情報をインターネット上で共有する防災情報システムの構築等、防災機能を強化し、地域コミュニティも含めた支え合いによる安心・安全なまちづくりを進めます。

事業の内容

■ 地域医療・福祉体制の充実

- ・ 地域共生社会の構築に向けた包括的支援事業
- ・ 住民参加型有償サービス支援事業
- ・ [在宅医療・介護の多職種連携推進事業](#)
- ・ [社会福祉協議会との連携による重層的支援体制整備事業](#)

■ 防災機能の充実

- ・ 自主防災組織活動支援事業
- ・ 消防団活動支援事業
- ・ 避難行動要支援者支援事業
- ・ 防災情報システム運用事業
- ・ 森林経営管理事業
- ・ [地域循環型木材利活用推進事業](#)
- ・ 里山づくり支援事業
- ・ ゼロカーボン推進事業
- ・ エネルギー自立化支援事業
- ・ 公共施設整備事業
- ・ [道路河川等整備事業](#)
- ・ [上下水道施設耐震化事業](#)
- ・ [防災 DX 推進事業](#)

担当部署

社会福祉課	防災課	ゼロカーボン推進室
保健福祉サービスセンター	消防課	建設課
健康づくり推進課	農林課	上下水道課
こども課	環境課	DX 推進課